

目標達成計画

作成日：平成 24 年 4 月 18 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出の機会が少なかったため、入居者の閉塞感に繋がることもあった。開設して間もない時期で職員の様々な業務の組み立てや、ケアに対しての知識の獲得、意識向上を目指しての途上状態にあった。	日常的な外出の機会と、個別で特別な外出の機会の設定をし、入居者が満足できる生活を送れるようにする。	・近隣の散歩コースのパターンを増やし、日常的な外出の機会を作る。 ・ひとりひとりに行きたい場所を聞き、ひと月に二人づつ、個別で特別な外出の機会を設ける。 ・外出行事は従来どおり続けていく。	9ヶ月
2	35	開設後、1年間に2回の防火訓練を実施した。法人全体の防火訓練に続き、グループホーム独自の訓練、主に速やかな応援体制作りを目指した夜間想定訓練を実施したが、地域との交流・協力体制作りにはまだ努力の必要がある。	地域との交流を深め、協力体制づくりを進めて、地域の中にあるグループホームとして安心の拠点となり、入居者も地域住民も、安全で安心できる地域となる地域づくりを進める。	・グループホームの運営推進委員・民生委員・近隣住民・家族会・地域包括支援センター・交番・消防署など様々な協力体制のもと、グループホームの職員が中心となり、法人全体の職員と協力し、地域のマップ(介護・防災・休憩場所などの安心体制ネットワーク)づくりをする。法人の職員と家族会・地域住民に「認知症サポーター養成講座」を開催する。	12ヶ月
3	20	家族に様々な生活背景があることを理解した上で、入居者の安心となる面会増を目指した雰囲気作りや、取り組みを拡充していく必要がある。	職員が接遇の学びを深め、家族の生活背景に配慮しながら、家族にも高齢者の心理を理解してもらい、家族と職員と入居者が同じ目線となれるようにする。	・家族も行事に参加してもらうように働きかける。 ・個別外出支援の時に家族の協力ももらう。 ・地域のマップ作りに対して、家族に協力依頼をする。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。